

# めぐみイエス・キリスト教会

2022年8月7日(日)第一主日礼拝  
週報「通算第620号」



## 2022年標題聖句

### 第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌222「罪の深みに」 p. 336

【交読文】 No.22 詩篇第65篇 p. 896

【賛美Ⅱ】 新聖歌515「わが罪のために」 p. 819

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.13「主をほめ讃え続けよ」

【聖書朗読】 使徒の働き18章18節～22節(新約p. 272)

【礼拝説教】 《エペソ伝道とアンティオキアへの帰還》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所(使徒の働き18章18節～22節)

18:18 パウロは、なおしばらく滞在してから、兄弟たちに別れを告げて、シリアへ向けて船で出発した。プリスキラとアキラも同行した。パウロは誓願を立てていたので、ケンクレアで髪を剃った。

18:19 彼らがエペソに着くと、パウロは二人を残し、自分だけ会堂に入っ  
て、ユダヤ人たちと論じ合った。

18:20 人々は、もっと長く留まるように頼んだが、パウロは聞き入れず、

18:21 「神のみ心なら、またあなたがたの所に戻って来ます」と言って別  
れを告げ、エペソから船出した。

18:22 それからカイサリアに上陸してエルサレムに上り、教会にあいさつ  
してからアンティオキアに下って行った。

### ●ポイント1. 「エペソ」とは？

■エペソ 使徒の時代にアジア州第一の都市であったエペソは、エーゲ

海沿岸のリュディアにあった。この町にはユダヤ人も多く住み会堂もあった。パウロは第2次伝道旅行の帰途に立ち寄り、短期間伝道してプリスキラとアクラを残して去った。第3次伝道旅行の時には、エペソ伝道が最大の目的であり、2年3か月も滞在した。この町の特徴は、古代世界の不思議の一つであると言われた「アルテミスの大神殿」であった。やがて銀細工人デメテリオの騒動が生じ、パウロはエペソを去る。後にローマの獄中から彼はエペソ教会に手紙を書き、テキコに届けさせた。エペソ教会はヨハネの黙示録に記されている七教会の一つであり、使徒ヨハネは後年エペソで長老として活躍したと伝えられている。ヨハネはエペソで没した。

●ポイント2.「神のみ心なら、またあなたがたの所に戻って来ます」とは？  
※使徒の働き9章1節「第三次伝道旅行において」 (新約p.273下段)

9:1 アポロがコリントにいたときのことであった。パウロは内陸の地方を通過してエペソに下り、何人かの弟子たちに出会った。

●ポイント3. エルサレムからアンティオキアへ

※民数記6章13節～18節「会見の天幕の入り口で」 (新約p.108上段)

6:13 これはナジル人についてのおしえである。ナジル人としての聖別の期間が満ちたときは、彼を会見の天幕の入り口に連れて行く。

6:14 彼は次のささげ物を【主】に献げる。すなわち、全焼のささげ物として傷のない一歳の雄の子羊一匹、罪のきよめのささげ物として傷のない一歳の雌の子羊一匹、交わりのいけにえとして傷のない雄羊一匹、

6:15 さらに穀物のささげ物として、種なしパン一かご、油を混ぜた小麦粉の輪形パン、油を塗った種なしの薄焼きパンを、それぞれに添える注ぎのささげ物とともに献げる。

6:16 祭司はこれらのものを【主】の前に近づけ、罪のきよめのささげ物と全焼のささげ物を献げる。

6:17 交わりのいけにえとして雄羊を、一かごの種なしパンとともに【主】に献げ、さらに祭司は穀物のささげ物と注ぎのささげ物を献げる。

6:18 ナジル人は会見の天幕の入り口で、聖別した頭を剃り、その聖別した頭の髪の毛を取って、交わりのいけにえの下にある火にくべる。

## ◎先週の礼拝メッセージの概要【主イエスの御名】

《旧約聖書によれば、モーセが主なる神様の名前を尋ねた時、「『私はある』と言う者である」と言われたのです。ここから、「YHWH」が啓示されました。昨今の聖書学者の研究によって、どうやら「ヤーヴェ」と読むらしいことが分かって来ました。しかし、実際に何と読むのかは、100%断定は出来ないのです。なぜなら、紀元70年のエルサレム陥落の時に、この読み方を知っていた大祭司たちは、後にカイザルとなるローマ将軍ティトスによって、全員処刑されたからです。

さて、私たちは新約の時代に生きています。そして、新約聖書を通して、救い主であるお方の名前が何であるのかを知っています。

シモン・ペテロは、ヨハネと共にユダヤの指導者たちに捕らえられた時、最高議会において、素晴らしいメッセージを語りました。

『「民の指導者たち、ならびに長老の方々。私たちが今日取り調べを受けているのが、一人の病人に対する良いわざと、その人が何によって癒やされたのかということのためなら、皆さんも、またイスラエルのすべての民も、知っていただきたい。この人が治ってあなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの名によることです。この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名の他に、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。』  
「ナザレ人イエス・キリスト」、これこそが、神様がおおやけにされた、ご自身の御名なのです。私たちは、主イエスの御名によって、父なる神様に祈り求めることが出来ます。主イエス様は、何時も先回りされて、私たちの為に用意して下さる素晴らしいお方です。主は、本当に今も生きておられます。このお方はリアル(実在)なのです。』

## お知らせ

※8月14日(日)の第二主日礼拝は、通常通り午前10時から行ないません。なお8月28日(日)の礼拝時間は、午後6時からと変更いたします。